

# 東京の生協のまちづくり活動トピックス

課題解決を入口にせず、“わたしの好き”から始まった活動で、人と人がつながり、アイデアを出し合い、やってみながら、結果的に自分たちのまちの課題にアプローチしていく。そんなまちづくり活動の新しいプロセスを学ぶ講座を2回連続で開催しました。



講師：出野 紀子さん  
(studio-L コミュニティデザイナー)



開催日：1回目2022年6月21日(火)  
2回目2022年7月14日(木)  
開催方法：Zoomによるオンライン開催  
参加人数：1回目26名(6生協2団体)  
2回目23名(6生協2団体)  
主催：東京都生活協同組合連合会

コミュニティデザインは  
「人と人をつなぐデザイン」  
のこと

日本の生産年齢人口が減り、高齢化が進んで年齢のバランスが崩れてきたことで、地域に様々な問題が起き始めた。

高齢者介護・健康格差  
自然災害・教育問題・  
環境問題・生活困窮..

税収入の減少  
地域の課題差  
課題の多様化

誰か一人だけ  
では課題を  
解決できない

出野さんの所属するstudio-Lはいろいろな活動を生んだり、話し合いの機会や場をつくることでみんなが仲良くなっていく力を糧に、やりたいことや悩みに取り組むお手伝いをしている。

## 取り組み事例その1

高齢化率日本1の秋田の成長戦略のひとつ「エイジフレンドリーシティを実現する」

「人生の先輩」と呼ぶ高齢者のライフスタイルから幸福な生き方を学ぶ展覧会「2240歳スタイル」を開催。お宅訪問での聞き取り調査、街角での観察などからイメージを膨らませ、展示だけでなく、PRやおみやげも市民で考えて盛り上げた。協力してくれた先輩29人の年齢の合計が展覧会のタイトル。また、先輩の生活の工夫や悩み、そして自分と関わりがある人間関係の調査で、秋田で長く幸せにくらすには「1人につき3人の年の差フレンズがいる」ことが望ましいことが分かり、企画に関わった有志は今も活動中。

川崎市の市民参加のまちづくりプロジェクトのひとつ。一人でもできることで勝手にもてなす、そんなゆるさが川崎らしいと思えるシビックプライドを自覚できるチャンスとなった。①自分が楽しいと思うことをやる②一人でやる③無料でやる④お客さんは3人来たらOK！の4つを大切に、ヒアリング調査やフィールドワークを行い、「マイプロジェクト」として自分が楽しめる活動があちこちで展開された。

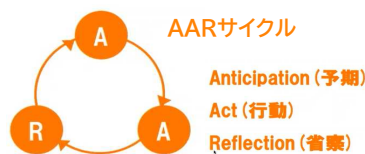


こんなことも！▶ <https://youtu.be/OcqZgsPhae0>

## 取り組み事例その2

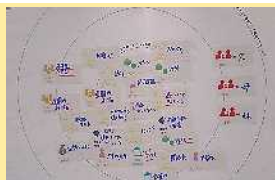
2020東京オリパラ開催！川崎市市民参加プロジェクト「かってに おもてなし大作戦！」

## 「楽しい」から始めてみよう！



課題を解決するという目的で始める「正しい」ことは、いいことだなあ...とは思ってもらえても、でもできない...と思われることもある。一方で、「楽しい」なあとと思うことから何かを始めると、仲間がふえたり、私もできるかも！と思う人がでてきたり、ハードルが低く、いろんな人が関わったりする。最終的には、「楽しい」で始めたことでも、その目的に近づけたりする。大切なのは「正しい×楽しい」のバランス。

「ひとづくりのプロセス」として注目されているのが「AARサイクル」。ワクワクすること、これやったらどうなるんだろう～を対話をしながら考えて【A】⇒実際にやってみて【A】⇒それから振り返る【R】。このサイクルを意識していくと、次にまたこうやってみよう！と考えやすい。



わたしの棚卸ししてみた「わたしの持てるカマップ」

1回目は、自分のやりたいことや興味関心を持っていることを書きだしてから、つながる人たちや自分自身のもっている資源を項目ごとのシールに記入して、「わたしの持てるカマップ」に貼る「わたしの棚卸し」の作業を行った。

2回目は、前回作成したシートをもとに、自分自身のやってみようことを発表し、同じグループのメンバーから「こうしたらもっと面白くなる」というアイデアを加えてもらい、「猫ばあばの縁側」「古本や〜」「レッツスライムダンシングカーニバル」「アクティブ趣味を増やしてオジカわ女子集まれ！海老名&厚木」など、個性的で楽しいまちづくり活動の種が参加人数分誕生！

ワークショップ  
わたしを棚卸しして、楽しい活動を考える

## 【出野さんのまとめコメント】

## 「参加なくして未来なし、楽しさなくして参加なし」

今回のワークショップで考えてもらったのはアイデア、案。アイデアや案はできるだけぶっ飛んだものがたくさんあったほうがいい！大量のアイデアを出して、これを実現しようとするのが企画。企画の段階になった時にはお金、時間、場所など現実的なことを考えるので、最初から現実を考えると面白い企画はできない。ぶっ飛んだアイデアをぜひたくさん出して、それから企画を考えて、勝手に盛り上げることをぜひやって欲しい。これをやらずに面白いものは生まれません。面白い現場から面白いものが生まれる。

## 【参加者の感想より】・こんな楽しい企画、2回で終わらせず、月1回やってください。

- ・まさに“わたしの好き”から始まる...流れになって、みなさんとても楽しそうでした。川崎市などの事例を見ても思いましたが、当事者が楽しんでいるからこそつながった人たちも楽しくなる、そんなまちづくり活動は素敵だと思いました。
- ・何もかもが楽しかったですが、人の企画に口をはさむことがとにかく楽しかったです。
- ・何でも、地域の活動に関わることは大事だと感じました。何からでもよいので始めたいと思います。